

山形県庄内地域における奈良・平安時代の土師器について

吉田満

1 はじめに

奈良・平安時代の遺跡調査では、土師器^{はじき}や須恵器^{すえき}などの土器が大量に出土する。土師器とは、粘土紐を積み重ね成形する素焼きの土器である。起源は古墳時代とされ、奈良・平安時代にも存続する。山形県内において、7世紀後半にロクロ成形の須恵器生産が始まり、徐々にロクロ成形の土器が増加していく。その中で、古墳時代から続く土師器（非ロクロ土師器）の他に、ロクロ成形の土師器（ロクロ土師器）が派生する。

山形県は現在の行政区分において、庄内・最上・村山・置賜の4地域に分かれている。筆者は過去に庄内地域の奈良・平安時代の遺跡調査に携わった経験があり、ある疑問を抱いていた。庄内地域の奈良・平安時代の遺跡から、非ロクロ成形の土師器がほぼ出土しない事である。庄内・置賜・村山の3地域においては、土器編年作業が行われ、非ロクロ土師器、ロクロ土師器・須恵器の3種の土器の組成や変遷が確認されている。最上地域については、奈良・平安時代の遺跡調査件数が他地域に比べ少なく、土器の変遷を追うことは困難である。

庄内地域における非ロクロ土師器の出土量が少ないことはこれまでの発掘調査で確認されているものの、その詳細について具体的に示されることがなかった。

その中で、阿部明彦氏による「山形県余目町上台遺跡^{かみだい}の竪穴住居跡と出土土器について」（庄内考古学第16号 1979）がある。第2号竪穴住居跡のカマド周辺で、廃棄されたと考えられる一括土器資料があり、非ロクロ土師器・ロクロ土師器・須恵器の土器組成について報告されている（図14）。また、1998年に開催された第24回古代城柵官衙遺跡検討会シンポジウム「城柵と地域社会の変容」の資料に庄内平野の土器編年が示されている。非ロクロ土師器・ロクロ土師器・須恵器の土器組成が確認できる資料として、吹浦遺跡^{ふくら}の資料が挙げられている。年代は8世紀第3四半期～9

世紀第1四半期とされている（図13）。

本稿では、庄内地域における奈良・平安時代の非ロクロ土師器を収集し、詳細を確認することを目的とし、今後の古代土器研究の基礎資料になれば幸いである。

2 研究方法

庄内地域の発掘調査報告書から、当該資料を可能な限り、検索・抽出し集成した。報告書内で、本文・観察表・図面で確認できるものを資料として扱い、遺跡名・遺構・年代などの基礎データの作成も行った。

あくまでも土師器を研究資料とするため、製塩土器は資料から除外した。また、資料収集対象遺跡として、窯跡等の生産遺跡は除き、消費地である集落遺跡や官衙関連遺跡に限定した。

3 収集成果

収集の結果、127の遺跡が対象となった。その中で23の遺跡で、非ロクロ土師器を総数67点確認した。庄内地域も平成の大合併により、市町村の合併が進み、平成30年3月時点で遊佐町・酒田市・庄内町・三川町・鶴岡市の5自治体で構成されている。遺跡の所在地は現時点のものを記載する。

本稿において、遺跡位置図（図1～5）、土器集成図（図9～12）、遺跡一覧（表1）、資料一覧（表2）を作成し、成果を示した。遺跡位置図は、出土遺跡及びその周辺を対象とし作成した。詳細は項目毎に記載する。

分布範囲 当該地域において、山形県教育委員会・山形県埋蔵文化財センター・市町村教育委員会による遺跡調査が実施・報告されている。

当該資料の分布範囲は、遊佐町・酒田市・庄内町・鶴岡市の4自治体にわたる。確認された遺跡の位置を図2～5に示した（遊佐町：図2、酒田市：図3、庄内町・鶴岡市藤島地域：図4、鶴岡市：図5）。出土遺跡の位置図を観る限り、庄内地域の北部に相当する遊佐町・酒田市に多い傾向が窺える。庄内町・鶴岡市（北部）

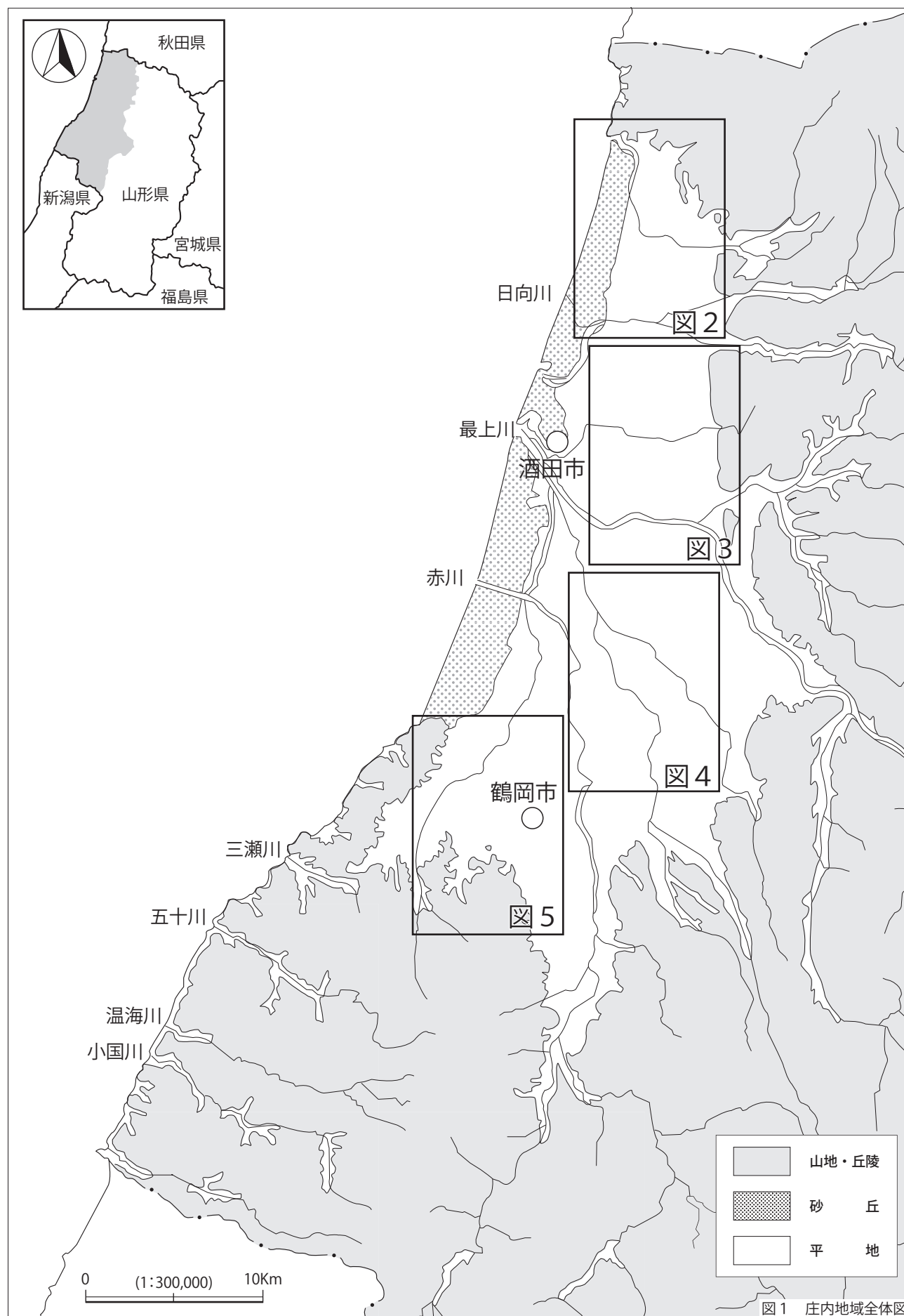


表 1 遺跡一覧

No.	遺跡名	所在地	No.	遺跡名	所在地	No.	遺跡名	所在地
1	吹浦遺跡	遊佐町大字吹浦	44	豊原遺跡	酒田市大字豊原	87	南口 A 遺跡	庄内町大字余目
2	升川遺跡	遊佐町大字直世	45	前田遺跡	酒田市大字保岡	88	家根合遺跡	庄内町大字家根合
3	中田浦遺跡	遊佐町大字当山	46	庭田遺跡	酒田市大字庭田	89	大縄 1 遺跡	庄内町大字吉方
4	筋田遺跡	遊佐町大字北目	47	安田遺跡	酒田市大字安田	90	大縄 2 遺跡	庄内町大字吉方
5	野瀬遺跡	遊佐町大字北目	48	郷崎遺跡	酒田市大字刈穂	91	三田遺跡	三川町大字横山
6	地藏田遺跡	遊佐町大字当山	49	城輪柵跡	酒田市大字城輪	92	二口遺跡	三川町大字角田二口
7	北目長田遺跡	遊佐町大字北目	50	蛙橋遺跡	酒田市大字保岡	93	勝楽寺遺跡	鶴岡市大字長沼
8	堂田遺跡	遊佐町大字北目	51	家際遺跡	酒田市大字保岡	94	平形遺跡	鶴岡市大字平形
9	櫓待遺跡	遊佐町大字北目	52	中谷地遺跡	酒田市大字吉田新田	95	渡前遺跡	鶴岡市大字渡前
10	宮ノ下遺跡	遊佐町大字北目	53	梵天塚遺跡	酒田市大字牧曾根	96	石欠遺跡	鶴岡市大字川尻
11	木戸下遺跡	遊佐町大字富岡	54	上曾根遺跡	酒田市大字上野曾根	97	上蛸井遺跡	鶴岡市大字東堀越
12	上高田遺跡	遊佐町大字富岡	55	村東遺跡	酒田市大字門能寺	98	中山廃寺跡	鶴岡市大字添川
13	木原遺跡	遊佐町大字宮田	56	上ノ田遺跡	酒田市大字境興野	99	西山遺跡	鶴岡市大字添川
14	石田遺跡	遊佐町大字野沢	57	境興野遺跡	酒田市大字境興野	100	柳久瀬 A 遺跡	鶴岡市大字柳久瀬
15	宅田遺跡	遊佐町大字野沢	58	北田 2 遺跡	酒田市大字関	101	中京田遺跡	鶴岡市大字中京田
16	大坪遺跡	遊佐町大字野沢	59	北田遺跡	酒田市大字関	102	地ノ本遺跡	鶴岡市大字面野山
17	仁田田遺跡	遊佐町大字野沢	60	関 B 遺跡	酒田市大字関	103	西ノ川遺跡	鶴岡市大字下川
18	古屋敷遺跡	遊佐町大字吉出	61	北境遺跡	酒田市大字北沢	104	西谷地遺跡	鶴岡市大字下川
19	三田遺跡	遊佐町大字吉出	62	新青渡遺跡	酒田市大字新青渡	105	五百刈遺跡	鶴岡市大字下川
20	袋冷遺跡	遊佐町大字吉出	63	南興野遺跡	酒田市大字南興野	106	山田遺跡	鶴岡市大字山田
21	北子橋下遺跡	遊佐町大字吉出	64	熊野田遺跡	酒田市大字熊野田	107	矢馳 A 遺跡	鶴岡市大字矢馳
22	小深田遺跡	遊佐町大字遊佐	65	土崎遺跡	酒田市大字土崎	108	南田遺跡	鶴岡市大字清水新田
23	浮橋遺跡	遊佐町大字小原田	66	手蔵田 5 遺跡	酒田市大字手蔵田	109	岩崎遺跡	鶴岡市大字下清水
24	東田遺跡	遊佐町大字庄泉	67	熊手島遺跡	酒田市大字熊手島	110	玉作 2 遺跡	鶴岡市大字中清水
25	下長橋遺跡	遊佐町大字小原田	68	本川遺跡	酒田市大字本川	111	玉作 1 遺跡	鶴岡市大字中清水
26	佐渡遺跡	遊佐町大字下小松	69	高阿弥田遺跡	酒田市大字横代	112	興屋川原遺跡	鶴岡市大字田川
27	前田遺跡	遊佐町大字下小松	70	横代遺跡	酒田市大字横代	113	行司免遺跡	鶴岡市大字大字水沢
28	地正面遺跡	遊佐町大字下小松	71	生石 2 遺跡	酒田市大字生石	114	万治ヶ沢遺跡	鶴岡市大字矢引
29	塚田遺跡	遊佐町大字下小松	72	手蔵田 3 遺跡	酒田市大字手蔵田	115	大道下遺跡	鶴岡市大字寺田
30	後田遺跡	酒田市大字政所	73	大槻新田遺跡	酒田市大字大槻新田	116	囲地田遺跡	鶴岡市大字白山
31	茅針谷地遺跡	酒田市大字法連寺	74	手蔵田 10・11 遺跡	酒田市大字手蔵田	117	月記遺跡	鶴岡市大字寺田
32	堂の前遺跡	酒田市大字法連寺	75	生石 4 遺跡	酒田市大字生石	118	大東遺跡	鶴岡市大字寺田
33	樋掛遺跡	酒田市大字市条	76	桜林興野遺跡	酒田市大字桜林興野	119	後田遺跡	鶴岡市大字寺田
34	八森遺跡	酒田市大字市条	77	西田遺跡	酒田市大字桜林	120	地ノ内遺跡	鶴岡市大字番田
35	小平 2 遺跡	酒田市大字市条	78	桜林遺跡	酒田市大字桜林	121	塔の腰遺跡	鶴岡市大字井岡
36	小平 3 遺跡	酒田市大字市条	79	早稲田遺跡	酒田市大字石橋	122	岡山 A 遺跡	鶴岡市大字岡山
37	小平 4 遺跡	酒田市大字市条	80	坂ノ下遺跡	酒田市大字生石	123	鶴ヶ岡城跡	鶴岡市大字馬場町
38	沼田遺跡	酒田市大字大島田	81	山谷新田遺跡	酒田市大字山谷新田	124	高間々遺跡	鶴岡市大字遠賀原
39	俵田遺跡	酒田市大字岡島田	82	山橋 8 遺跡	酒田市大字山橋	125	鳥居上遺跡	鶴岡市大字日枝
40	若王寺遺跡	酒田市大字刈屋若王寺	83	茗ヶ山遺跡	酒田市大字茗ヶ山	126	藤沢岩屋遺跡	鶴岡市大字藤沢
41	向田遺跡	酒田市大字本橋	84	下餅山遺跡	酒田市大字下餅山	127	鼠ヶ関館跡	鶴岡市大字鼠ヶ関
42	新田目 B 遺跡	酒田市大字新田目	85	千河原遺跡	庄内町大字千河原			
43	明成寺遺跡	酒田市大字豊川	86	上台遺跡	庄内町大字甘六木			

該当遺跡

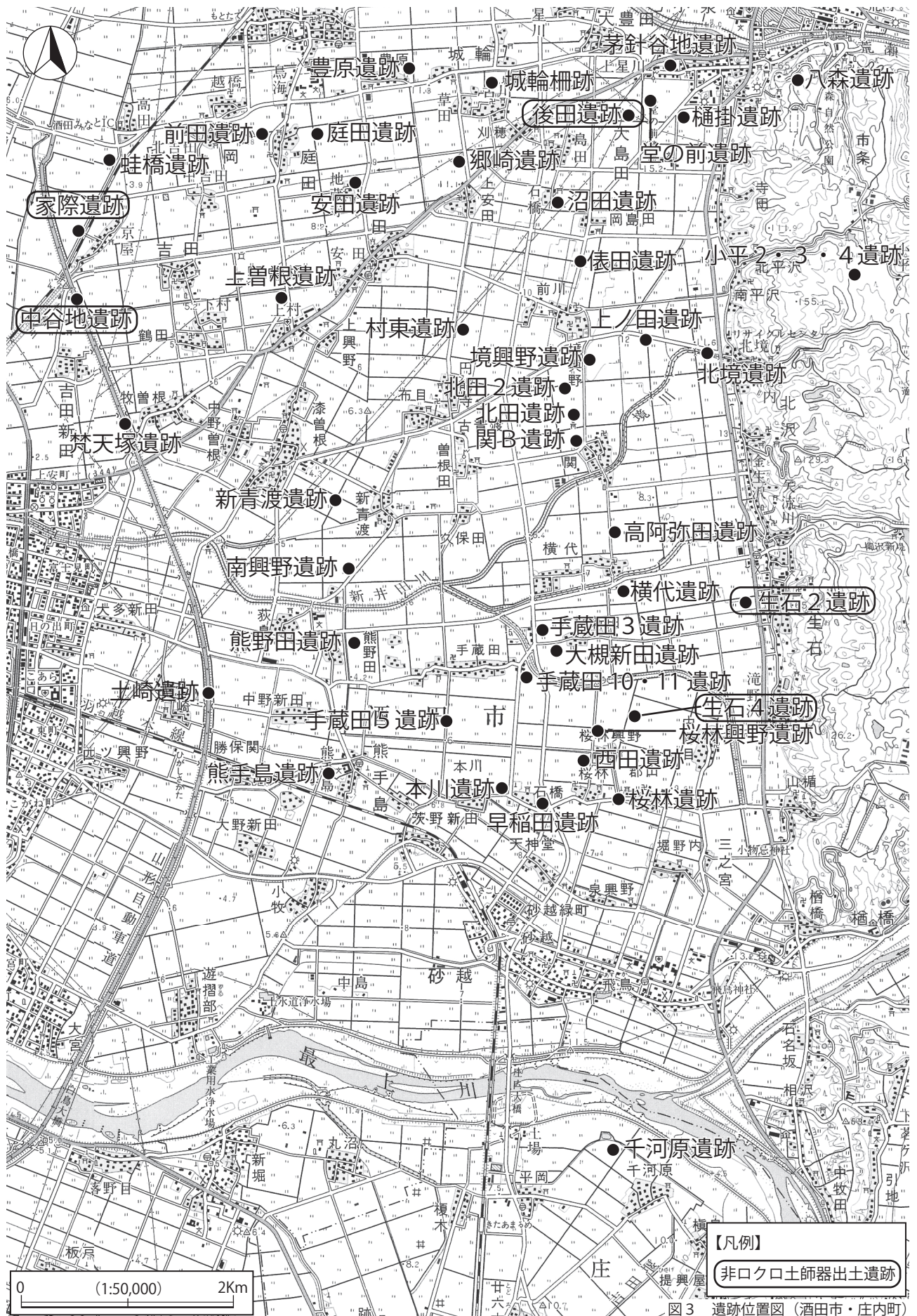
においては僅かに確認できる程度である。遊佐町が 15 遺跡、酒田市が 5 遺跡、庄内町が 1 遺跡、鶴岡市が 2 遺跡である。数字上で見ると、庄内地域の南北では差異が認められる。

資料数 総数 67 点を確認した (表 2)。突出的に出土数の多い遺跡はなく、どの遺跡においても、数点出土する程度である。古墳時代の非ロクロ土師器と判別でき

ないものや、ロクロ成形の判別が困難な資料も存在する。時代やロクロ成形の有無が確認できないものは資料に含めていない。

器種 坏・甕・鉢の 3 種を確認した。主に甕が多く 64 点、坏が 3 点、鉢が 1 点である (表 2)。鉢については、底部のみの資料で、甕の可能性も考えられる。土器製作時の痕跡として、体部には粘土紐を積み重ねた痕跡や、





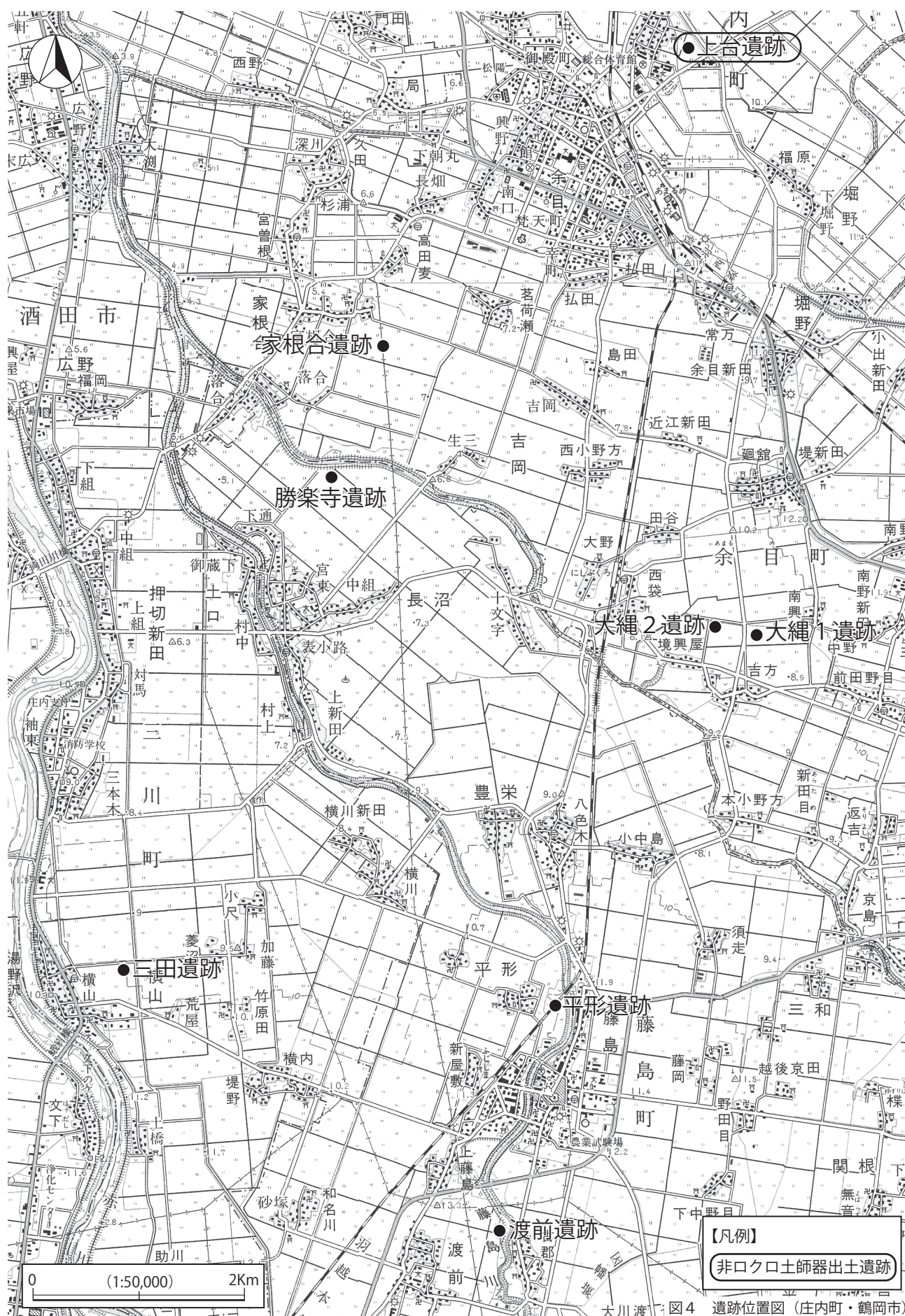




図5 遺跡位置図（鶴岡市）

表 2 資料一覧

遺跡名	所在地	報告書		遺構名	器種		
					坏	甕	鉢
吹浦遺跡（第 1 次）	遊佐町大字吹浦	県	82	ST7		1	
				SX2		1	
				SX 3		1	
吹浦遺跡（第 2 次）	遊佐町大字吹浦	県	93	ST889a	1		
升川遺跡	遊佐町大字直世	セ	9	SK333			1
中田浦遺跡	遊佐町大字当山	県	185	遺構外		1	
筋田遺跡	遊佐町大字北目	県	187	SD354		1	
				SD642		1	
				SD724		3	
				SG19		1	
北目長田遺跡	遊佐町大字北目	セ	31	SK324		1	
堂田遺跡	遊佐町大字北目	セ	24	SK171		1	
				SK361		1	
木原遺跡（第 1 次）	遊佐町大字宮田	県	186	SK2		1	
木原遺跡（第 2 次）	遊佐町大字宮田	セ	8	SK3		1	
				遺構外	2		
				遺構外		3	
石田遺跡	遊佐町大字野沢	県	184	SD67		1	
宅田遺跡	遊佐町大字野沢	県	72	遺構外		2	
大坪遺跡	遊佐町大字野沢	県	166	SK32		1	
小深田遺跡	遊佐町大字遊佐	県	140	SK156		1	
小深田遺跡	遊佐町大字遊佐	県	142	SD77		3	
東田遺跡	遊佐町大字庄泉	県	163	遺構外		1	
下長橋遺跡	遊佐町大字小原田	県	130	SX110		2	
地正面遺跡	遊佐町大字下小松	県	51	SX11		1	
塚田遺跡	遊佐町大字下小松	県	51	SK18		1	
後田遺跡	酒田市大字政所	県	64	SK441		1	
家際遺跡	酒田市大字保岡	県	199	遺構外		1	
中谷地遺跡	酒田市大字吉田新田	セ	42	SG59		4	
生石 2 遺跡	酒田市大字生石	県	117	SK51		2	
生石 4 遺跡	酒田市大字生石	県	118	SD11		1	
				遺構外		10	
上台遺跡	庄内町大字甘六木	県	14	ST2		2	
西ノ川遺跡	鶴岡市大字下川	セ	26	SK250		1	
				SK882		1	
				SD288		1	
				遺構外		1	
西谷地遺跡（第 3 次）	鶴岡市大字下川	セ	33	SK108		3	
				SK583		2	
				SK589		1	
				SG1001		1	
				合計	3	63	1

* 「県」：山形県教育委員会、「セ」：山形県埋蔵文化財センターを示す（数字は集番号）

底部には木葉痕や網代痕が確認される。また、甕に関しては、長胴形を呈し、体部の内外面にハケ目調整が施される。資料のほとんどが破片資料で、全体がわかるものは少ない。

出土遺構 竪穴住居跡（ST）、土坑（SK）、溝跡（SD）、河川跡（SG）、性格不明遺構（SX）、遺構外等の遺構よ

り出土しており、明らかな出土傾向は確認できない。

資料の年代 当該資料が出土する遺構の年代は、報告書上で報告されているものは少なく、表は作成していない。出土事例が僅かなため、8 世紀第 3 四半期～9 世紀第 2 四半期の期間のみ確認できた。

4 考察

収集結果を元に筆者の考えを述べたい。

分布範囲 庄内地域の北部で多く出土する傾向が窺える（図 6）。現在の河川の位置と合わせて観てみると、ほぼ最上川の北側に出土遺跡が位置する。さらに日向川の北側は特に顕著に多い。

当該資料の分布範囲図を作成した段階で、以前筆者が執筆・作成した「菊花状痕跡を有する土器」の分布範囲図に類似するような気がした（図 7）。菊花状痕跡を有する土器資料は、最上川の北側のみで出土し、南側では皆無である。非ロクロ土師器、菊花状痕跡を有する土器の 2 種類の土器分布を見る限り、最上川を基準として、差異があることが窺える。

庄内地域は当初越後国の一部として存在し、後に出羽国が建国し出羽国に編入する。平安時代には飽海郡・出羽郡・田川郡の 3 郡が存在していたとされている（図 8）。各郡の発生時期・存続期間について定かではない部分もあるが、位置関係を観る意味で参考になりたい。

今回の研究対象である非ロクロ土師器出土遺跡は、飽海郡・出羽郡内に留まり、特に出土遺跡が集中するのは飽海郡屋代郷・遊佐郷に相当する。田川郡内では確認されない。

各郡によって、ロクロ成形技術の導入段階において、何等かの差や違いがあったことが推測される。

資料数 収集の結果、127 遺跡が対象となり、その内当該資料が出土したのた 23 遺跡のみで、総数は 67 点のみであった。127 遺跡で 67 点という状況から、限りなく数少ない現状がわかる。これだけ、非ロクロ土師器が少ないということは、非ロクロ土師器の必要性がなく、生産・使用されていない現れなのだろうか。

器種 甕が大部分を占め、僅かに坏・鉢がある。また、同一遺構から、非ロクロ土師器の異なる器種が共に出土することは確認されなかった。

土器組成 一括資料と推測できるのは極僅かである。

図7 菊花状痕跡を有する土器出土位置図（吉田 2014）

山形県うきたむ風土記の丘考古資料館 2010

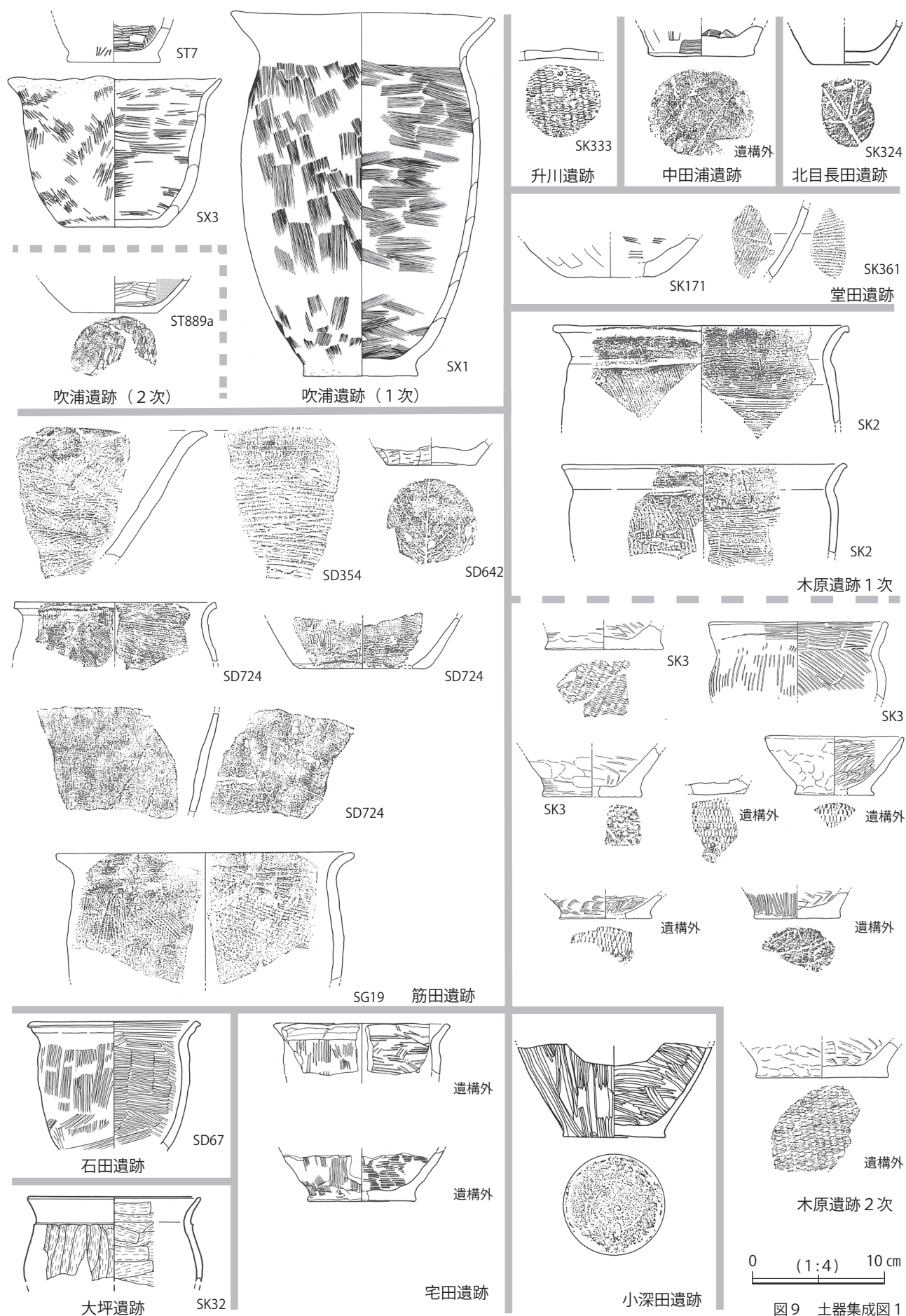
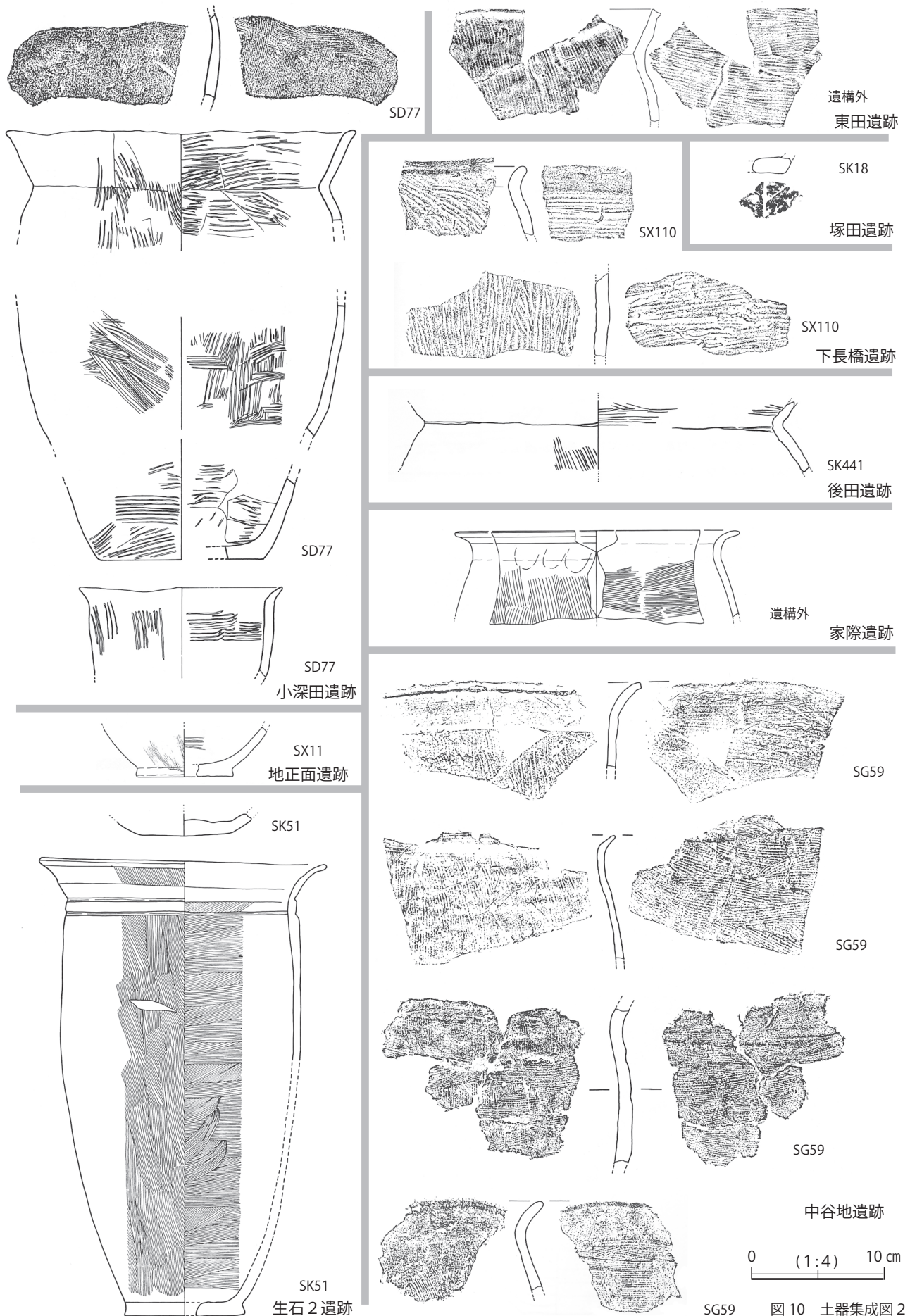
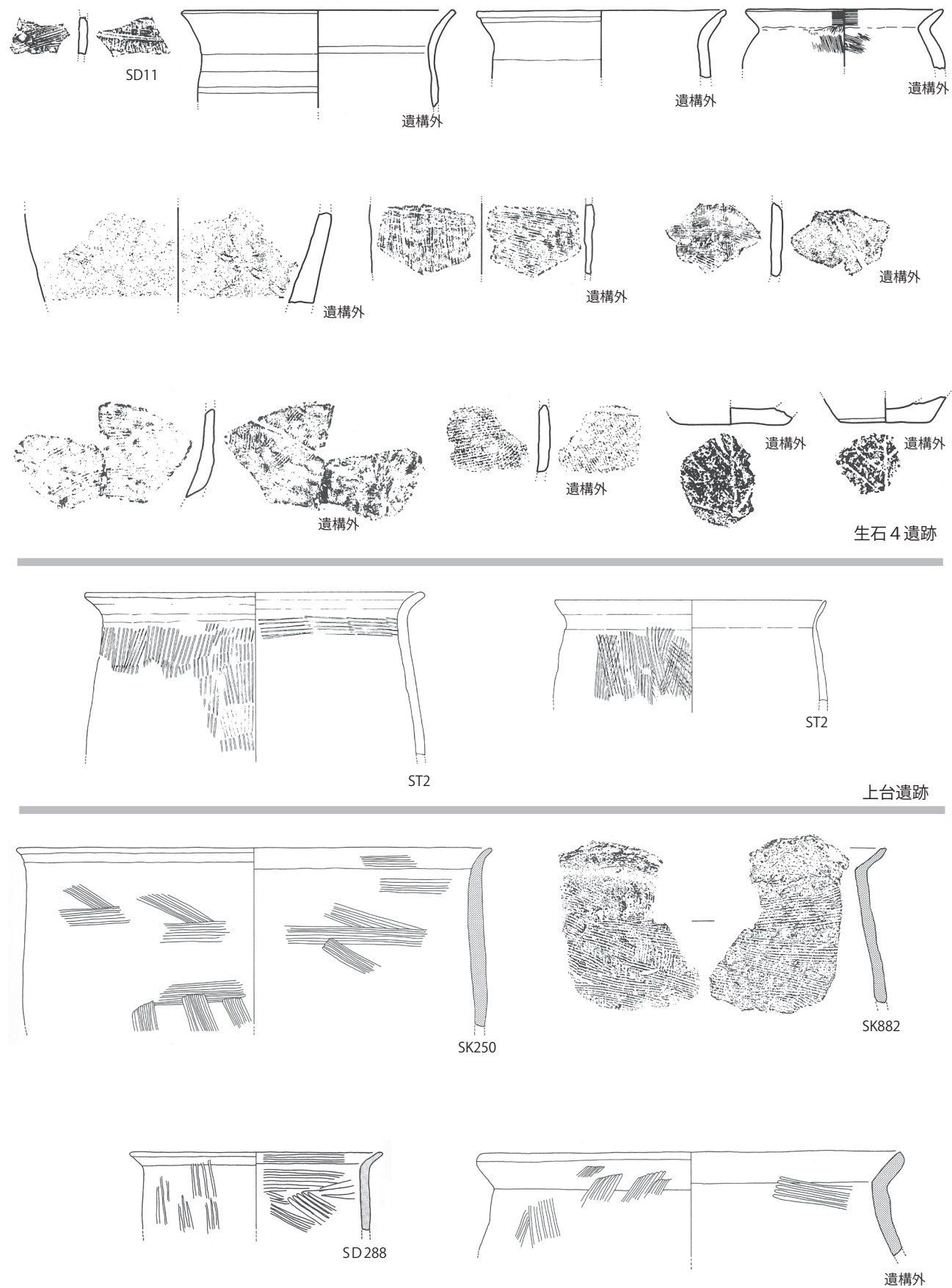


図 9 土器集成図 1





西ノ川遺跡
図 11 土器集成図 3

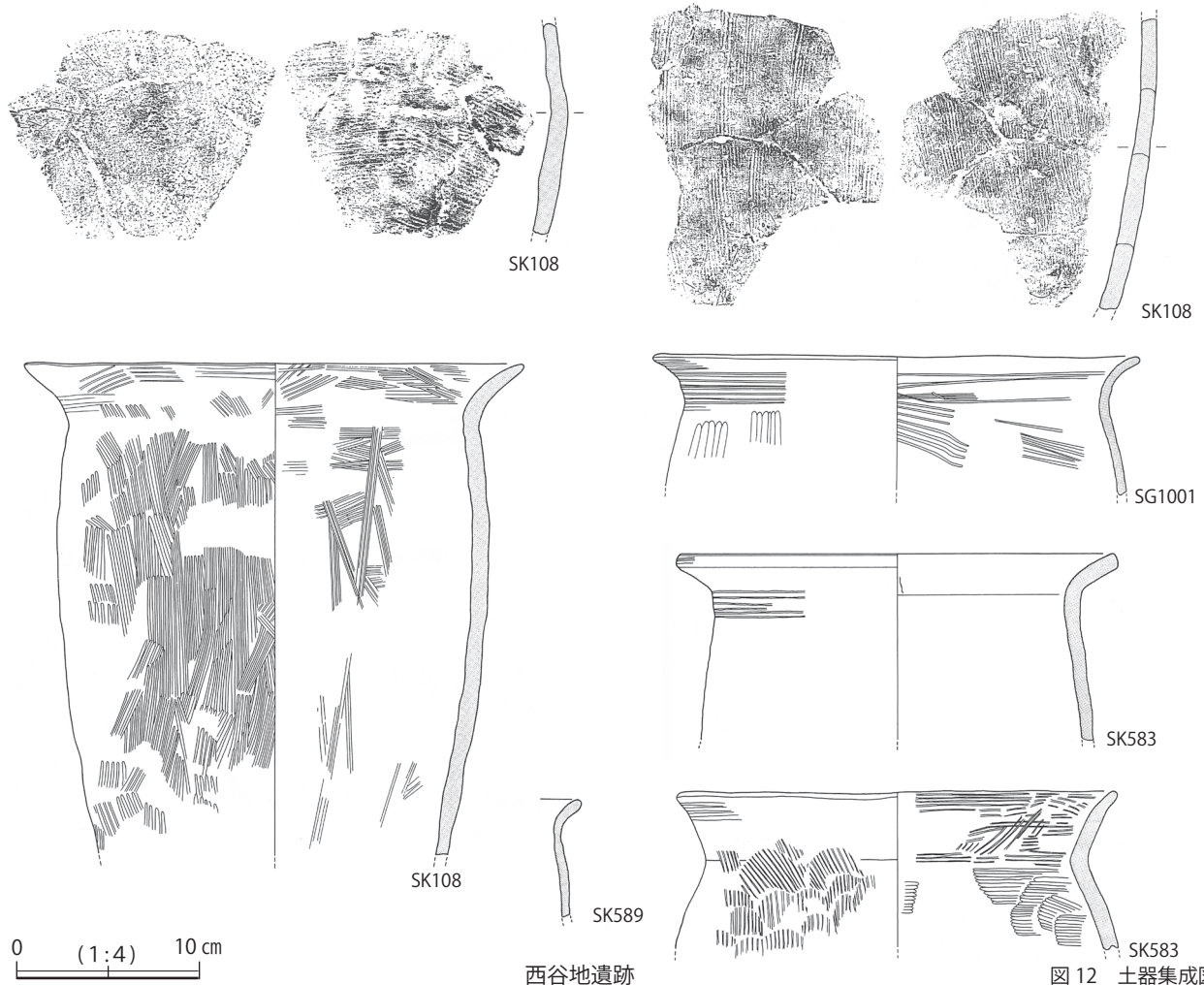


図 12 土器集成図 4

5 おわりに

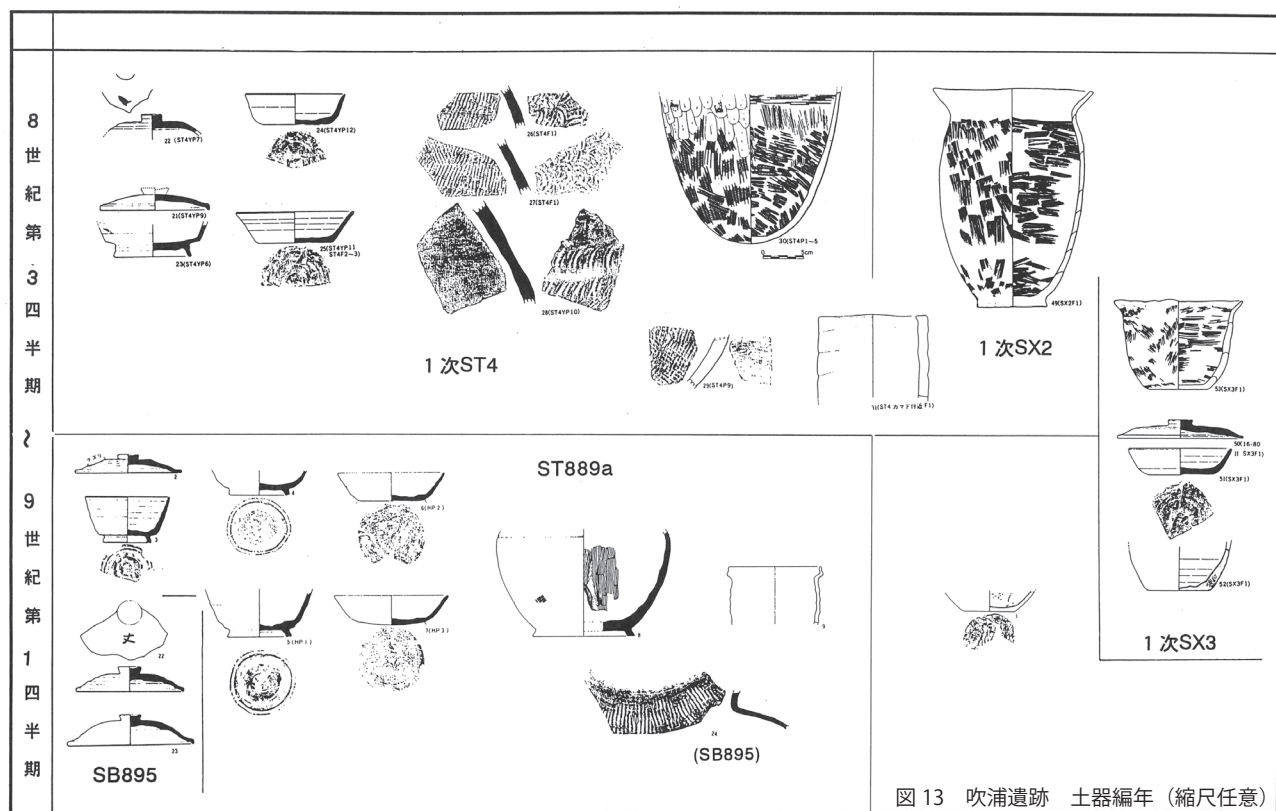
今回、庄内地域における奈良・平安時代の非ロクロ土師器について、資料収集と考察を行った。以前より、指摘されていた通り資料数は少ない。127 遺跡を対象とし、23 遺跡で当該資料を確認し、総数 67 点のみの出土であった。器種は坏・甕・鉢があり、甕が大部分を占める。分布範囲は飽海郡・出羽郡に相当する遊佐町・酒田市に多く、庄内町・鶴岡市においては希薄であることがわかった。田川郡に相当する鶴岡市南西部からの出土は確認されず、各郡によって差異があることが窺えた。年代については、少なくとも、8 世紀第 3 四半期～9 世紀第 2 四半期の期間に存続することは確認できたものの、起源や存続期間については追及できなかった。土器組成については、須恵器とロクロ土師器の 2 種を基本とし、そこに組成割合は限りなく低いものの、非ロクロ土師器が僅かに含まれることが予測される。

上記のように、当該資料の様相が僅かではあるが、明らかとなった。ただ、出土数が少ない事もあり、十分な考察はできなかった。

今後、当該資料の増加はもちろんだが、他方面からの検討も不可欠である。起源を探る意味においても、7 世紀～8 世紀前半の資料が不可欠である。さらに近接する秋田県・新潟県や、村山・置賜地域との関係性の検討も必要である。

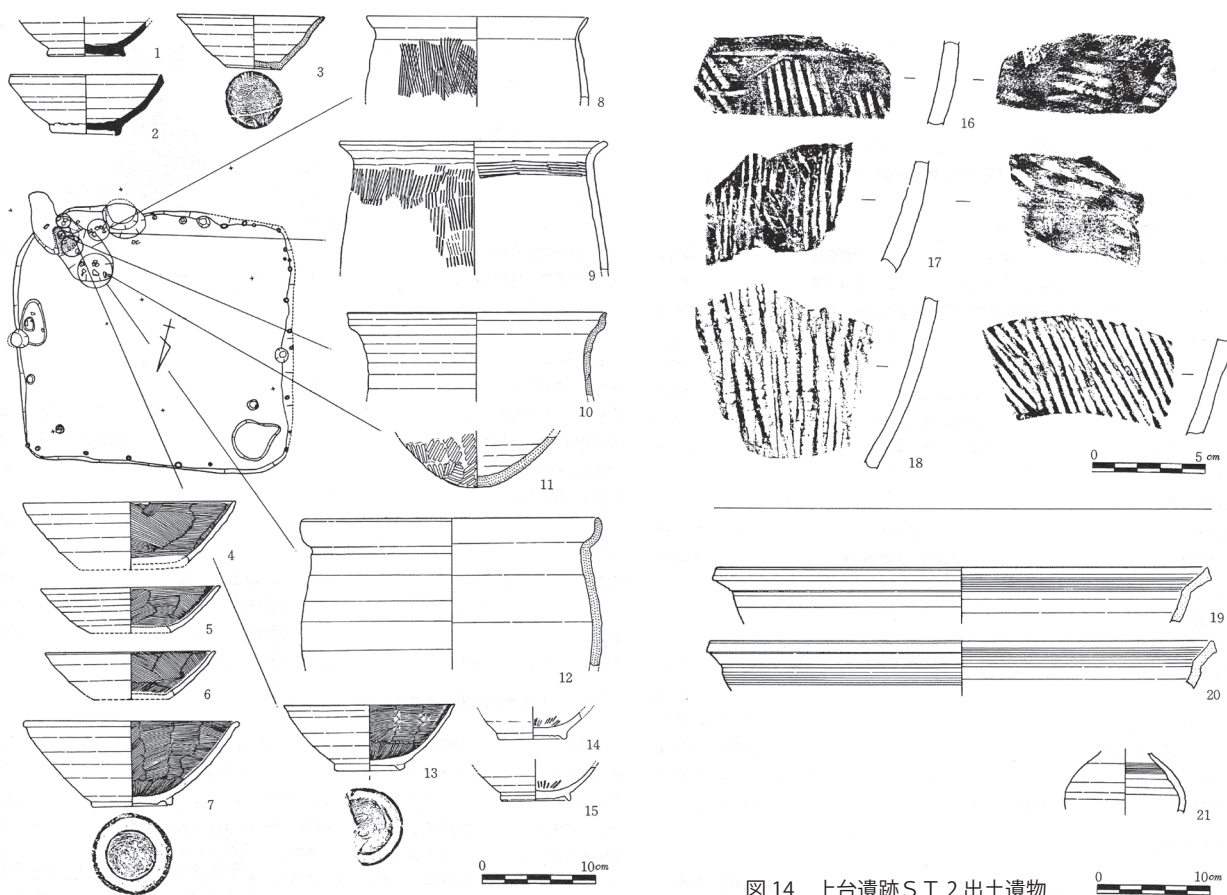
参考文献

- 阿部明彦 1979 「山形県余目町上台遺跡の竪穴住居跡と出土土器について」『庄内考古学第 16 号』pp.41-47 庄内考古学研究会
- 阿部明彦ほか 1998 「庄内平野」『東北地方の古代集落』第 24 回古代城柵官衙遺跡検討会シンポジウム「城柵と地域社会」資料集第 2 分冊
- 阿部明彦・水戸弘美 1999 「山形県の古代土器編年」『第 25 回古代城柵官衙遺跡検討会資料』
- 吉田満 2014 「古代出羽南部における菊花状痕跡を有する土器集成」『研究紀要第 6 号』公益財団法人山形県埋蔵文化財センター



【出典】第 24 回古代城柵官衙遺跡検討会 シンポジウム「城柵と地域社会の変容」資料集

『東北地方の古代集落 第 2 分冊 (米代川流域・秋田平野・横手盆地・庄内平野)』1998



【出典】阿部明彦「山形県余目町上台遺跡の竪穴住居跡と出土遺物について」『庄内考古学第 16 号』1979